

1 日本産樹木見本園

日本に自生している約600種の樹木のうち、約250種を「常緑広葉樹(照葉樹)」、「落葉広葉樹」、「針葉樹」の順に配置しています。日本の代表的な樹木の樹形や樹皮、葉、花、実などの特徴を知ることができます。常緑広葉樹は、クスノキ、タブノキ、スダジイ、マテバシイなど、落葉広葉樹は、クヌギ、アベマキ、ホノノキ、トチノキなど、針葉樹は、ヒノキ、サワラ、モミ、ツガなどがご覧いただけます。

2 外国産針葉樹木園

ヒノキ科のメタセコイア、セコイア、ヌマスギ、スイショウなどを植栽しています。メタセコイアは、1941年に故三木茂博士(当園の元園長)が化石植物として発見・命名し、後に、中国の四川省(現在の湖北省)で生存個体が発見されたことから「生きている化石」と言われるようになりました。その種子をアメリカで発芽させ、育てた100本の苗木が1950年に日本に送られました。そのうちの1本は当園で現在も立派に育っています。

3 外国産鑑賞樹木園

アメリカヤマボウシ(ハナミズキ)、フウ、モミジバフウ、ハナキササゲ、トチュウ、ユリノキ、アオギリ、ニワウルシなど主に高木性の落葉広葉樹を植栽しています。サンシュユ、ウチワノキなどの低木類も観察できます。

4 東アジア区

高温多雨な熱帯地域をのぞけば、東アジアは地球上でもっとも樹木の種類が多い地域です。コウヨウザン、コノテガシワ、キンモクセイ、カリン、ミツマタなどを植栽しています。

5 北アメリカ区

モミジバフウ、ユリノキなどを植栽しています。

6 ユーラシア区

ユーラシアは、地球上でもっとも広大な陸地です。文学、絵画などで親しい名前ものが数多くみられます。セイヨウイチイ、ホソイトスギ、オウシュウナラ、セイヨウトチノキ(マロニエ)、セイヨウバクチノキなどをご覧いただけます。

7 オーストラリア区

ユーカリ、カリトリス、カリステモンなどを植栽しています。

8 サクラ山

オオシマザクラ、ヤマザクラ、クマノザクラなどの数種の野生種と園芸品種を集めています。2月下旬の「大寒桜」の開花を皮切りに、「糸桜(枝垂桜)などの一重咲き、4月中旬からは「関山」、「梅護寺数珠掛桜」などの八重咲き品種、そして最も晩生の「奈良の八重桜」まで約2ヶ月にわたり順次見ごろを迎えます。「新錦」を初めとした緑のサクラ6品種もご覧いただけます。

9 梅園・果樹見本園

梅園は、早咲きから遅咲きの品種が順番に開花し、毎年1月中旬から3月中旬に見ごろを迎えます。また、果樹見本園にはナシの野生種をはじめ、モモ、スモモ、カキなどを植栽しています。

10 ツバキ山

ツバキの原種のほか、園芸品種を中心に外国産を含む多くの品種を植栽しています。11月下旬から4月上旬まで様々な品種をお楽しみいただけます。

11 カエデ山

イロハモミジやハウチワカエデと、これらに由来する品種を中心に植栽しています。毎年11月中旬から12月上旬に紅葉が見頃を迎えます。

12 マグノリア園

コブシ、タムシバ、モクレン、タイサンボク、ウケザキオオヤマレンゲなどのモクレンの仲間を集め、原始的とされる花の構造を見ることが出来ます。

13 ヤシ園

シュロ、ブラジルヤシ、ヤタイヤシ、カナリーヤシなどのヤシ科の植物のほか、ニューサイラン、ニオイシュロラン、タイワンソテツなどを植栽しています。



樹林型の説明は裏面をご覧ください

- 園路
- ポイント
- トイレ
- 休憩所
- 多目的トイレ
- 非公開

14 タケ・ササ園

おもにマダケ属のタケを集めています。株立状になる南方系のタケも数種あります。

15 花木園

ボケ、レンギョウ、アジサイ、サザンカ、マンサクの仲間など、花や葉の美しい日本産・外国産の低木類を植栽しています。

16 夏咲き花木

ムクゲ、フヨウ、キョウチクトウ、サルスベリなどを植栽しています。

17 乾燥地の植物

北米や中米の砂漠植物を植栽し、乾燥気候地の植物景観を作り出しています。当園へ植栽後、数十年を経てようやく開花に至ったアオノリュウゼツランやプヤ・アルベストリスのほか、ユッカ・アウストラリスのように数年に一度しか咲かない植物もあります。

18 熱帯・亜熱帯の植物

温室(非公開)で育てている植物の一部を、夏季限定で露地に植出し公開しています。衣食住において生活に役立つ有用植物を中心に熱帯・亜熱帯の植物を見ることが出来ます。

19 水生植物

水辺の植物は、開発による生育地の消失や水質の悪化などにより絶滅の危機に瀕しているものが少なくありません。そのような絶滅危惧種を含め数多くの水生植物を展示しています。また花蓮、花菖蒲などの園芸品種もご覧いただけます。

20 西日本絶滅危惧植物

環境省のレッドリストに掲載されている種など希少な植物を展示しています。この中には「種の保存法」の対象種である、アラゲタデ、ダイトウサクラタデ、ウスギワニグチソウ、キバナノツクヌキホトギスも含まれます。

21 湿生植物

日本の湿地は、開発による埋め立てなどの様々な要因で減少し続けており、そこに生育する植物も多くの種が絶滅の危機に直面しています。生息域外保全を目的として採集したヤチスギランなど、希少な品種を含む湿生植物をご覧いただけます。